長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９２

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年５月２３日(火)

独り言

最近、「みんなの居場所」の執筆に時間がかかる。話題に困ることが多い。ネタ用のメモ帳を持ち歩くことが少なくなったため、良いアイデアが浮かんでもメモしていないのだ。人間の記憶はそんなものなのか、あるいは自分が年をとったのか。メモを心がけようと思う今日この頃だ。

今週末は運動会だ。教頭時代運動会では講評の役を仰せつかった。出来るだけ感動をその時の言葉で表したいと思うのだが、短い時間でそれを表現することは容易ではない。練習の時の一生懸命な姿を知っているので、どんな言葉もちっぽけに思えてしまう。それほど、子供達の一生懸命さは私たち職員の心を打つ。

子供達は、どのようなパフォーマンスを見せてくれるのだろうか。笑顔と、主体的、協働的な姿を楽しみにしている。

【雑感】「国語の力」と「読書」は学びの要

以前、「みんなの居場所」でもお話ししていたと思いますが、どのような学習をするにしても「国語の力」はその土台であり、学びの要です。併せて、「読解力」も重要です。読解力というと、文章の内容理解と考えがちですが、私はそれにプラスして、「直面している事態を的確に把握し、それが意味するものを汲み取る力」ととらえています。このような力は、国語の授業を中心とし、人との関りや多くの読書活動等によって養われます。

お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦さんは「二国語一に国語二、四がなくて五に算数、あとは十以下」と仰っています。藤原さんはなぜ国語が大切なのか、その理由として２つ挙げられました。一番目の理由は、言語を学ぶという目的があるということ。生活をするうえでも学問をするうえでも、国語はすべての出発点です。二番目は、国語をきちんと学ぶことで論理的思考能力が身についていくということ。ディベートをしたり、何かを主張する作文を書いたりすることで、論理的に考える力が身に付いていくというのです。もともと私は国語力の重要性や必要性を感じていましたので、藤原さんの考えがスッと入ってきました。

教育現場でも政治やビジネスの最前線でも、「現場での読解力」の乏しい人がいくら集まっても、お互いの意図を十分に理解したり相手に寄り添うことができなかったりするために、コミュニケーションの質は高まらず、何ら発展的な成果を上げることはできませんよね。私は、テレビでもこの様な場面を見たことがあります。只々自分の主張を繰り返すだけで、建設的な意見も出さず代替案も出さない人たちが集まり、議論にもならない話し合いを。そんな時間は無意味ですし、時間の無駄です。

本校では「主体性」「協働性」「創造性」を子供達に身に付けさせたい資質・能力として教育活動を展開しています。中でも「協働性」は「思いに気づき、目的を共有しながら多様な他者と関わり、協力して行動する力」としています。まさに現場の読解力、すなわち「直面している事態を的確に把握し、それが意味するものを汲み取る力」を駆使し、課題解決の方法を多様な他者と協力して見つけ出す力です。

私個人の考えではありますが、今仕事をさせて頂く上でも「現場の読解力」はとても役立っており、「国語の力」アップのための「読書」もしっかり続けようと思っています。

シリーズ「自分を語る」#９２

９月の研修開始直後、私は通常の研修以外の研修コーディネートを始めていました。先ずは、韓国の研修員との県外研修です。韓国の研修員、チェさんは獣医さんです。本人の希望と研修時期等々から、県外研修先は沖縄となりました。沖縄というと観光というイメージがありますよね、私たち一般人からすれば。でも違うんですね、あくまで防疫や地域の食の安全等が研修の主なものです。

沖縄での最初の行き先は、沖縄県庁交流推進課と畜産課です。次の日に予定されている「鳥インフルエンザ防疫演習」の打ち合わせのためです。なんでも、私は熊本県の幹部として来賓待遇らしく、実際の会場では来賓席に座っていました。しかも、私の隣にはチェさんと沖縄県の幹部の皆様方です。しかも、目の前で行われている演習は、私にとっては完全な専門外の「鳥インフルエンザ防疫演習」ですよ。私はただ、状況を見守るだけでした。アウェーの緊張感の中で、とにかく喉が渇いた澤田でした。

更に研修は続きます。行先は「沖縄県動物愛護センター」です。愛護センターという名称ですが、実施される業務は少し悲しいものでした。熊本市の動物愛護センターでは殺処分ゼロを目指す取組が有名ですが、当時のこのセンターではかなりの数の処分が行われていました。犬や猫の飼い主が見つからない場合は、炭酸ガス（二酸化炭素）による処分となります。そのための施設を私は県の担当者として視察したのでした。その時、私は単純に（生き物を飼う人は飼い主としての責任をもって欲しいものだ！）と、強く思いました。

次の研修先は「県衛生環境研究所ハブ研究室」でした。個人的にはここが一番面白かったです。チェさんは「地域防疫」という視点で、しっかり視察していましたが、私は動物園の蛇コーナーを見に行く気分でした。しかし、動物園というレベルではありませんでした。私が見た施設には、数百匹のハブが飼育されており、視察前に担当の方から「絶対に手を近づけないでくださいね。」と言われ、余計に恐怖心が高まりました。その担当の方は以前ハブに噛まれたらしく、その時のことを生々しく語ってくれました。

「私が噛まれたのは、実は昨年です。初めて噛まれました。ハブの赤ちゃんが生まれて、親から食べられないようにするために、別のケージに移したんです。あまりにちっちゃいので、油断があったのでしょうね。ちっちゃいから毒性も弱いなんて甘く考えていました。親指を噛まれましてねぇ。１週間は生きた心地がしませんでした。肘から先がパンパンに張れちゃってね。」

簡単に書いていますが、ハブに囲まれた中でそんな話を聞くと、何とも言えませんよ。そして、研究室を後にするのですが、道々どこにハブが潜んでいるかわからないなんて、妙な緊張感の中で移動することになりました。

沖縄での研修は基本的にレンタカーでの移動でした。沖縄県は狭いのですが、公共交通機関での移動は時間がかかって勿体ないですからね。私個人としては「美ら海水族館」に行きたかったのですが日程的に無理で、チェさんと相談の結果、平和に関する施設を視察することになりました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）